

日付

裁判官の名前

裁判所の住所

子供の名前

裁判所のケース番号

[名前をここに挿入]裁判官：

世界保健機関（WHO）、ユニセフ、米国外科総務局、米国家庭医師会など数多くの保健機関は、母乳育児が子供に与える相当な利益に基づいて、生後1年を超えて母乳育児を推奨しています。アメリカ小児科学会は、「母乳育児は 少なくとも 母親と子供が相互に望む限り、生涯の初めの年であり、さらに「母乳育児期間の上限はなく、生後3年以上の母乳育児からの心理的または発達障害の証拠はない」（「母乳の授乳と使用」小児科、2012年3月）。専門家は、離乳の自然年齢は約2.5歳から約7歳であると述べています。現在、WHOは、子どもたちに母乳育児を 最小 2年続けることを勧めています。幼児の母乳育児は正常であることを覚えておくことが重要です。

幼児期後の授乳のメリットは、授乳が続く限り、栄養と病気予防の両方が含まれています。1年を過ぎたら、母乳はタンパク質、カルシウム、脂肪、およびビタミンAを供給し続けています。確かに、母乳は、発育中の幼児にとってこれらの重要な成分のかなりの量を提供し、乳児が子供にとって栄養の提供を停止する年齢は知られていません。子供が年を取るにつれて、母乳の組成は、子供の栄養ニーズに合わせて変化し続けてます。さらに、母乳育児は、母乳内にある細胞、ホルモン、そして抗体を活性化させます。授乳中の乳児は、病気の発症率を低下させ、死亡率も低下します。これらの免疫性の利点は、幼児の母乳育児時間が長く続けば続くほど、耳感染症および上気道感染症を発症する可能性が低くなります。授乳中の幼児はアレルギーが少なく、授乳期の長期間は喘息の防止にもつながります。これらの健康上の利点と共に、授乳中の幼児は母乳が提供する脳活性化のメリットも受けます。学校のIQスコアと成績を含む学力と母乳育児の関係に関する広範な研究は、最も長く授乳された子供が最も高いことが示されました。

これらの生理学的利益に加えて、社会的利益もあります。子供が母乳育児を受けている期間と、社会的に調整されている期間が6歳から8歳の間には大きな関係があります。自分のペースで独立を達成した子どもたちは、強制的に独立させられた子供たちに比べて、安全感を抱きます。子供にとってもう一つ重要なのは、ボトルのような無生物に切り替えることを余儀なくされるのではなく、人に感情的な愛着を維持することができるということです。この愛らしいつながりは、時にはイライラする大きな変化を経験している幼児にとって、非常に重要です。

この事案の親権を判断する際には、研究結果を参照することを求めます。

敬具

署名

名前